



茂林寺沼湿原 自然学習会

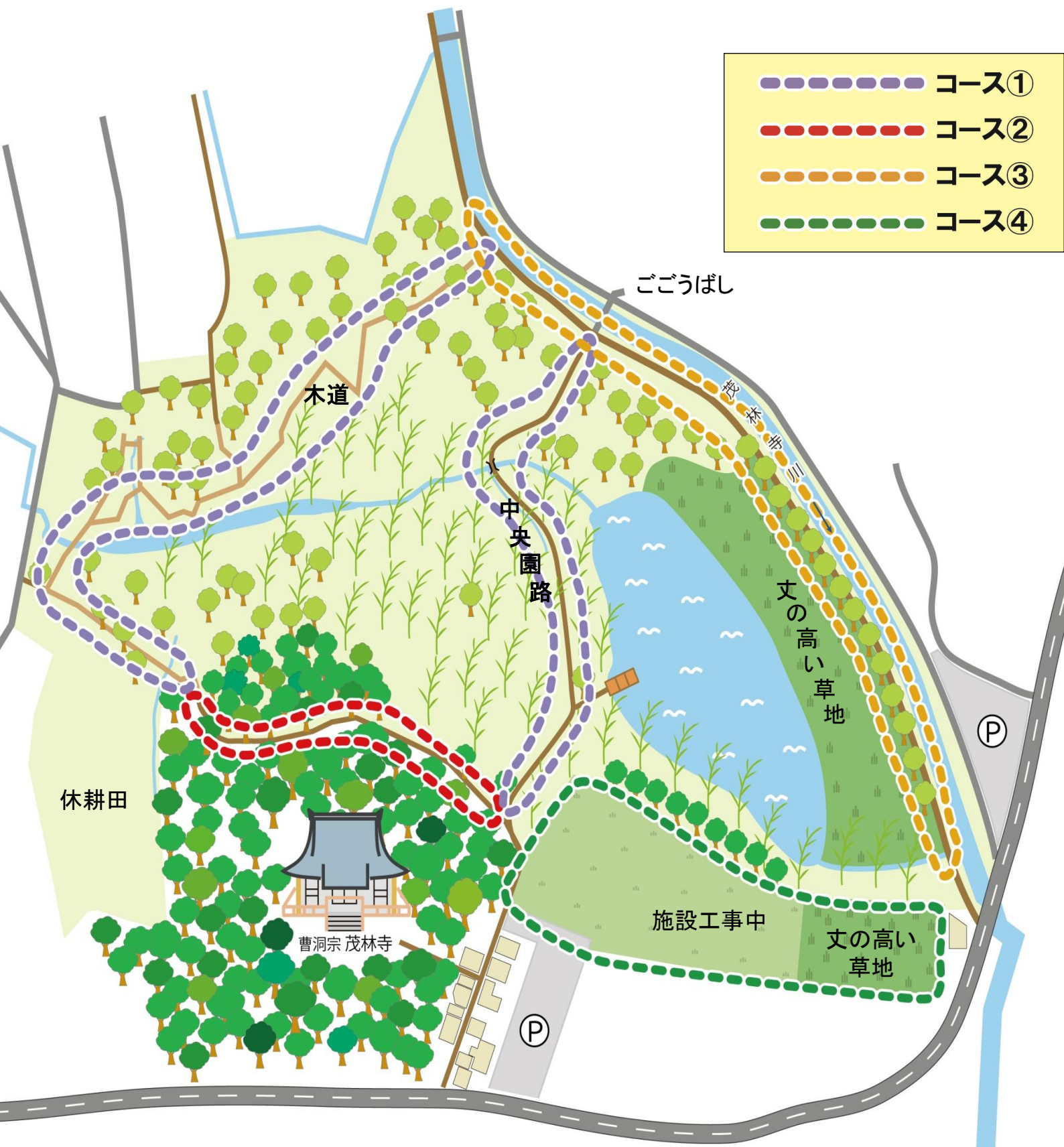
～夏休み、昆虫調査講習会～

湿原の昆虫調査隊

2026年7月25日



茂林寺沿湿原 昆虫調査隊 調査コースMap



茂林寺沿湿原の周辺では、これまで約900種の昆虫が確認されています。それでも、もっと調べれば、まだ見つからない昆虫があるはずです。

今回の学習会では、平成21～22年に行った昆虫調査の方法を解説し、茂林寺沿湿原のいろいろな環境で昆虫を調べる「昆虫調査隊」を体験します。



昆虫調査では、確認した場所や環境を記録することが大事です。
「湿原の昆虫調査隊」では、3～4のコースを分けています。

コース
①

■中央園路と湿原の木道コース

ヨシ原を中心とした湿性草地で、茂林寺川付近にはハンノキやヤナギが目立つ湿原環境ですが、近年乾燥化がすすんでいます。
平成21－22年の調査では731種の昆虫が確認されています。



コース
②

■茂林寺の社寺林コース

古くから茂林寺の社寺林として保たれてきた雑木林で、大木も多く林床にはササが見られます。森林性の昆虫が豊富な環境です。
平成21－22年の調査では256種の昆虫が確認されています。



コース
③

■茂林寺川の土手道コース

茂林寺川の河川敷や土手、そして茂林寺沼の北側の平坦地を含む、明るい草地環境で、土手の歩道沿いにはソメイヨシノの並木があります。
平成21－22年の調査では288種の昆虫が確認されています。

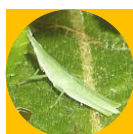


コース
④

■茂林寺沼南の草地コース（現在、施設工事中）

平成21－22年の調査では、調査対象になっていなかった範囲で、東側に丈の高い草地が、中央から西側には丈の低い草地が広がっています。
主にバッタやコオロギなどが生息する環境です。





オンブバッタ

昆虫調査の第一歩は、 まず「虫を見つける」こと



コース①では、
昆虫を採集しないで、
見つけて観察する
しかたを体験しよう

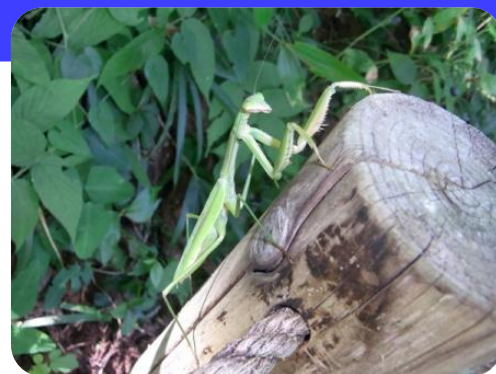


昆虫は人が近づいていることを、
ほんの少しの地面の揺れや光、
風の変化などを感じ取って知ります。

歩いて観察（ゆっくり歩きながら昆虫を発見する）

地図を持って、チョウ、トンボ、
セミやバッタなどの昆虫を観察します。

忍者のように、ゆっくり静かに歩いて観察します。
(野鳥のセンサス調査のように)



オオカマキリ

止まって観察（じっと止まって昆虫を発見する調査方法）

虫がいた場所やいそうな場所では、
じっと動かずにその場で観察します。

例

デッキから池を見たり、橋から川を見てトンボを探す。
ベンチなど長く休める所で、周囲にいる昆虫を探す。



ヒグラシ

待って観察（ポイントで昆虫を待って発見する調査方法）

昆虫が頻繁に現れる場所では時間をかけて、
昆虫の待ち伏せ観察をします。

例

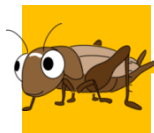
花や水場に集まるチョウや定期的に同じ
コースを飛んでくるトンボなどを探す。



ゴマダラキミキリ



昆虫の習性やこれまでの経験から
待ち伏せのポイントを
上手に見つけておくことが大切です。



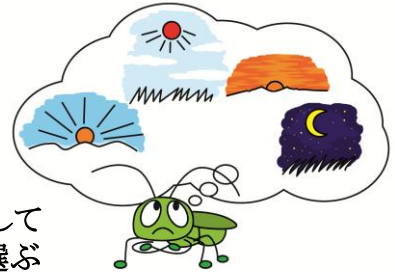
次のことを意識して

昆虫を発見する。(昆虫を見つけることのトレーニング)

いつ観察するか (季節や時間帯に注目)



昆虫の発見しやすい
季節や時間帯を考えよう。



虫が一番活動して
いる時間帯を選ぶ

どこで観察するか (場所や環境に注目)



昆虫がいつもいる
場所や環境を考えよう。



餌場集まる



幼虫が食べる植物に集まる

何を観察するか (植物など昆虫の食べものやすみかに注目)



昆虫が食べる植物や
隠れ場所などを考えよう。



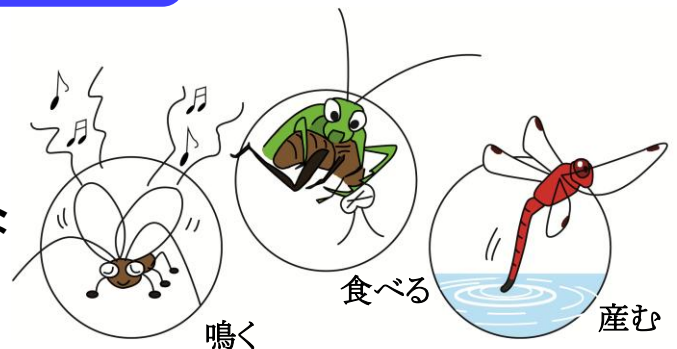
虫には、それぞれ好きな
場所や隠れ場所がある

どんなところを観察するか

(飛ぶ、跳ねる、鳴くなどの昆虫の動きに注目)



昆虫が飛んだり、
跳ねたりすること。
時にはセミやコオロギのような
鳴く虫の声を意識しよう。



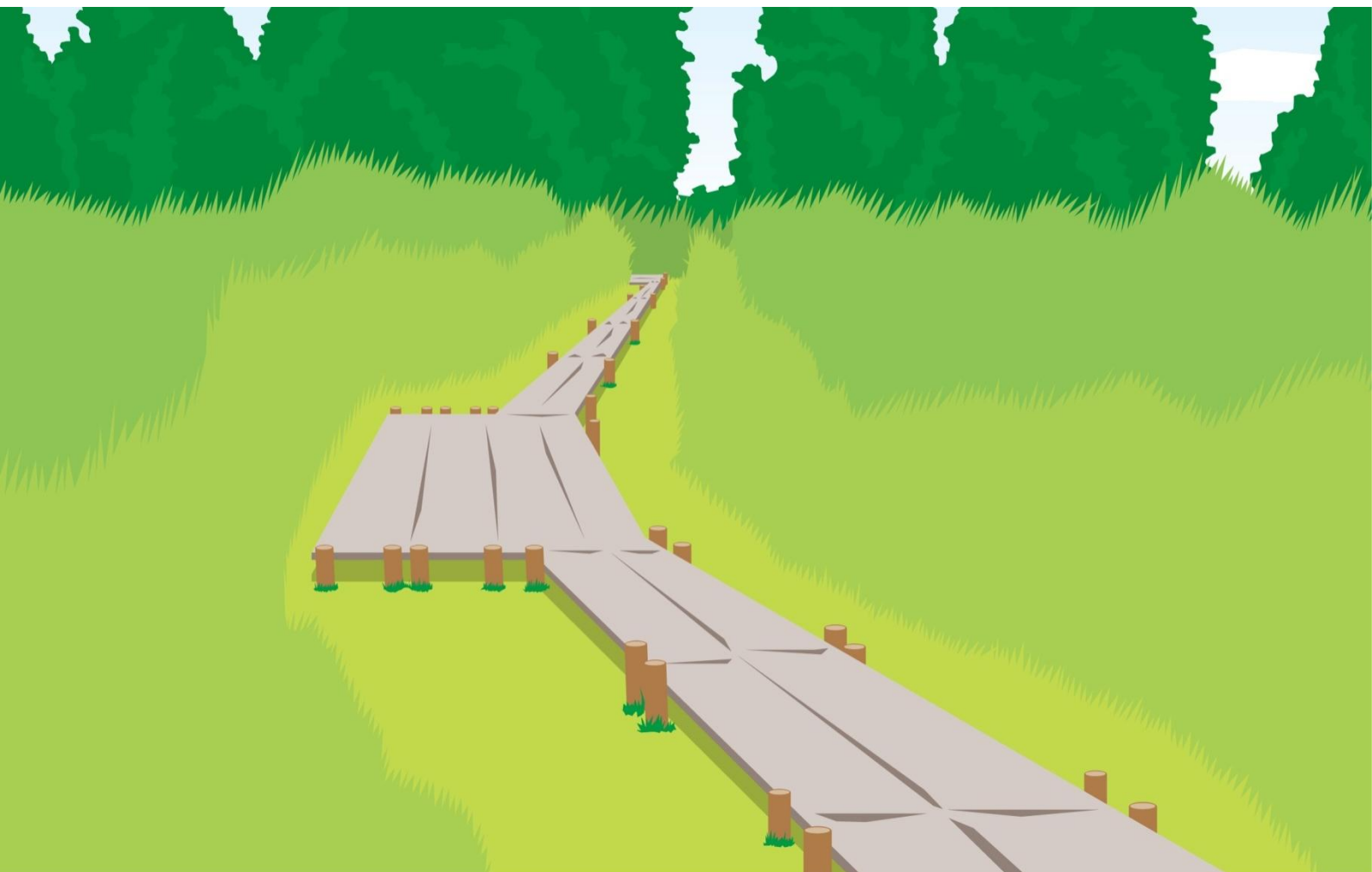
鳴く

食べる

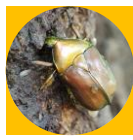
産む



見つけたら観察！
いろいろとメモをとっておくとよい。
(昆虫観察日記など)



ばんごう	虫 の な ま え	見た
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		



カナブン

昆虫を発見する 調査方法



コース②では、林にいる昆虫を
採集して調査する方法を体験しよう

昆虫を見つけて採る

枝や葉の先に注目



よく見ると、虫は
枝の先や葉の先
に止まっている
ことが多いことに
気づきます。

足もとに注目



足下にも虫がい
ます。いつも、虫
を踏まないよう足
下にも注意するこ
とが大切です。

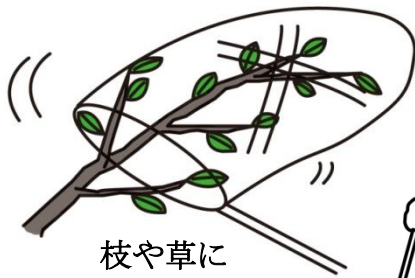
なれてくると、虫が良くいる所が分かってきます。昆虫のいそうな所だけを選んで、目を配るクセをつけましょう。

隠れている昆虫を採る

(捕虫網などの道具を使う調査方法)

見つけられなくても、
昆虫は、葉や枝の裏
や見えない所に隠れ
ていることがあります。
そこで、網や罌で昆虫
を捕まえる方法もあり
ます。

捕虫網を使う



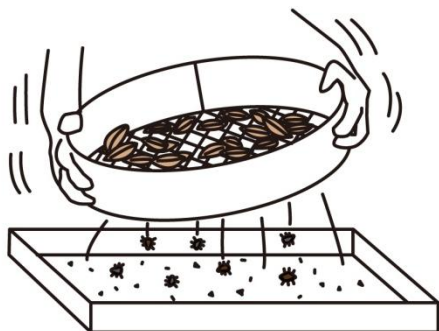
枝や草に
かぶせて
すくい取る

叩き網を使う



枝や葉を
叩いて
虫を落とす

ふるいを使う

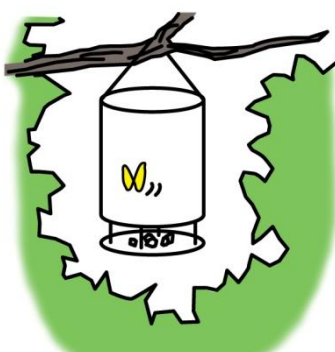


落ち葉などを振るって、
網目から虫を落とす

トラップを使う



カナブンはいはい



チョウのレストラン



ライト・フィット・トラップ



昆虫も夏は暑いので、 時間帯を選んで活動している

早朝の調査（早起きは三文の徳）

■夜明けから8時くらいまで

早朝は、夜行性の昆虫がまだ隠れていなかったり、日中活動する昆虫が目覚めて出てくる時間です。



ウスバキトンボ



トウキョウヒメハンミョウ

日中の調査（活動する昆虫を探す）

■9時から3時まで

日中は昆虫も暑がるので、日陰や風通しの良い場所で休んでいることが多いのです。



ノシメトンボ



アオドウガネ

夕方の調査（涼くなってから虫を探す）

■4時から日没まで

日中、休んでいる虫や、夜、活動をはじめると動き出す時間帯です。



アオオサムシ



コクワガタ

夜間の調査（夜行性の昆虫を探す）

■日没から

実は、夜は活発に活動する昆虫が一番多い時間帯です。



セスジツユムシ



ムクゲコノハ



ばんごう	虫 の な ま え	とった	見た
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			



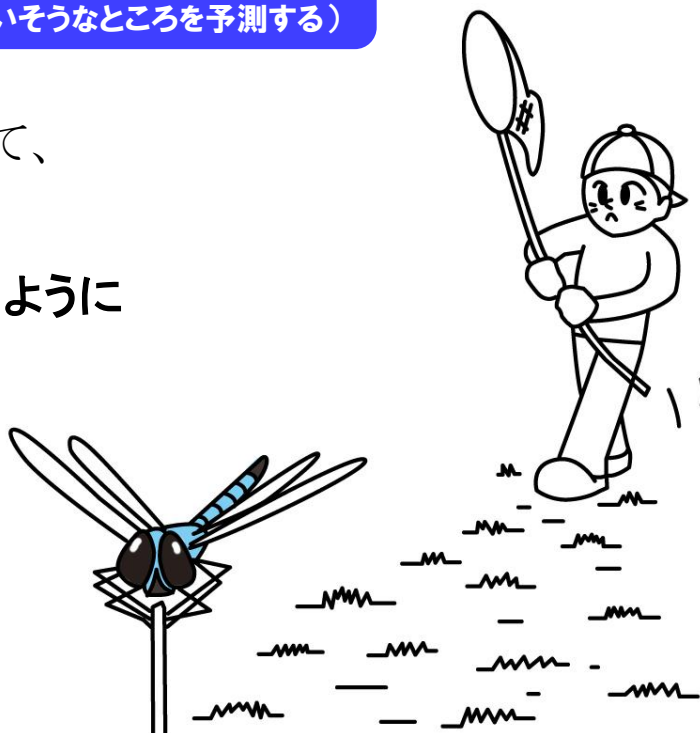
少し離れて、網を使って 昆虫をとる方法



コース③では、
広いところにいる
昆虫を探し採集する
調査方法を体験しよう

少し遠くから昆虫を探す (昆虫のいそうなところを予測する)

- ★ まず虫がいそうな所を予想して、
目をこらして虫を見つける
- ★ 虫を見つけたら気づかれないように
そっと近づき、網の柄などで
虫との距離を測る

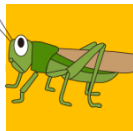


一度逃がしても、目だけは虫を追っていく

- ★ こちらがあわてると、
虫は遠くに逃げてしまう
- ★ ゆっくりとおどかさなければ、
虫は近くにしか逃げない



注) 虫がこちらを見つける前に、
こちらが虫を見つけるよう心がける



捕虫網の使い方

すくい採り (飛んでいる昆虫などを、空中ですくい取る方法)

飛んでる
虫をねらう



網で
すくい取る



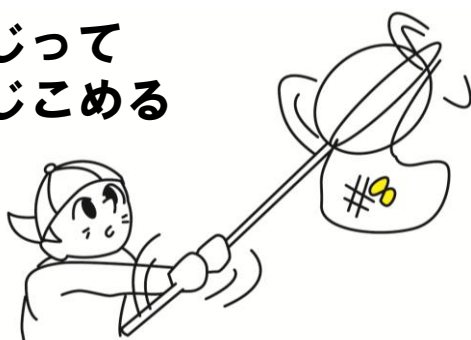
1

2

3

4

網をねじって
虫をとじこめる

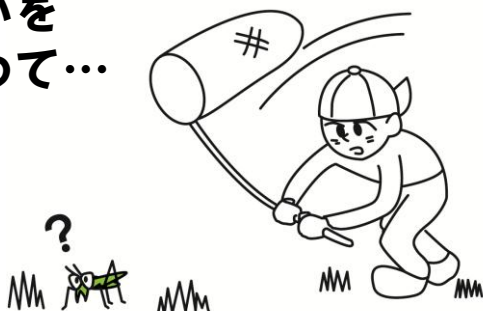


虫は網の外から
おさえる



かぶせ採り (地面などに止まっている昆虫を、かぶせ取る方法)

ねらいを
さだめて...



虫を
かぶせ取る



1

2

3

4

網の先を
つまみ上げ
虫を網の奥に
おいこむ



網のえを
もち上げ
虫は
網の外から
おさえる



注) 虫を網に入れただけでは、
まだ採ったことにはならない

コース③でみつけた昆虫の確認位置の記録



コース④でみつけた昆虫の確認位置の記録



ばんごう	虫 の な ま え	とった	見た
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

● アジアイトトンボ



小さな池でも幼虫が育つ。成虫は水辺を離れ、草地等でも見られる。

● オオアオイトトンボ



幼虫は水田などから発生し、成虫はやぶや林の近くで秋に見られる。

● ギンヤンマ



水草が多い池で産卵。飛翔力が強く、夏から秋に多く見られる。

● シオカラトンボ



開けた水域を好み、草地や公園にもいて春～秋遅くまで見られる。

● オオシオカラトンボ



流れのある水域を好み、成虫は夏～秋にかけて見られる。

● コフキトンボ



開けた水域を好み、群れることや、メスの翅に帯のあるものもある。

● コシアキトンボ



若いものは林内で見られ、成熟するとオスは水辺でなわばりを張る。

● ショウジョウトンボ



若いものは草地などにいて、成熟すると開けた水域に現れる。

● ウスバキトンボ



日中は開けた草地などの上空を飛んでいて、夕刻枝などに止まる。

● ノシメトンボ



翅の先が黒い。茂林寺周辺では夏に多く、秋はあまり見られない。

● ナツアカネ



夏から秋に見られ、オスは成熟すると全身が赤くなる。

● アキアカネ



おもに秋に見られ、成熟したオスは尾(腹部)だけが赤くなる。

●エンマコオロギ



3cmくらいの大きさ。オスは大きな声で、コロ・コロ、リーと鳴く。

●ツツレサセコオロギ



1.5cmくらいの大きさ。オスはリ・リ・リ・・・と切れ目なく続けて鳴く。

●ハラオカメコオロギ



オスの顔面は平たい。草地にいて、リリリ、リリリ・・・と切って鳴く。

●クマスズムシ



丈の高い草地ややぶの地表で生活する。触角の中ほどが白い。

●マダラスズ



明るく丈の低い草地や芝地にみられ、あしは白黒のまだら模様。

●ウスグモスズ



外来種で、林内に生息し、木の枝や幹にいる。オスも鳴かない。

●クサヒバリ



やや丈の高い草地や林縁に生息し、甲高い美しい声で鳴く。

●カンタン



クズやススキの草地で、おもに夜にリュリュ・・・と小さな声で鳴く。

●アオマツムシ



外来種で、9月頃から公園や街路樹で、夜大きな声で集団で鳴く。

●カネタタキ



低木の枝や幹にいて、小さな声でチン・チンと鐘を叩くような音を出す。

●ツユムシ



丈の高い草地に生息しよく飛ぶ。プチ・プチ・・・という声を出して鳴く。

●セスジツユムシ



林縁など林に近く丈の高い草地に生息する。リズムカルな声で鳴く。

●ハタケノウマオイ



草地や林縁で見られ、夜スイッチンとよくとおる大きな声で鳴く。

●ヤブキリ



林内の樹上で生活し、肉食性でセミなど他の昆虫を捕らえて食べる。

●ヒメギス



やや丈の高い草地に生息し、茂林寺沼湿原の木道によく出てくる。

●クビキリギス



頭の先が尖り、口もとが赤い。真夏には幼虫で、秋に成虫になる。

●クサキリ



やや丈の低い草地にいて、頭の先はあまり尖らない。夏から成虫。

●シブイロカヤキリモドキ



南方系の種で、日中は頭を下にしてじっと草に止まって夜鳴く。

●ウスイロササキリ



イネ科の植物が多く、やや丈の高い草地を好む。草の間をよく飛ぶ。

●コバネササキリ



湿った草地に限って生息する。オスは腹部より明らかに翅が短い。

●ササキリ



ササの茂った林床に生息する。夏から現れシリリリ…と優しい声で鳴く。

●トゲヒシバッタ



水田や湿地など湿った場所を好む。胸の横に鋭い刺がある。

●ハネナガヒシバッタ



丈の低い草地や空き地に生息する。後翅を使ってよく飛ぶ。

●ハラヒシバッタ



丈の低い草地や空き地に生息する。背中の模様や色は様々。

● オンブバッタ



丈の低い草地で、よくオンブしている。後あしは翅に付けて止まる。

● ショウリョウバッタ



やや丈の高い草地で見られ、オスは飛ぶとキチキチ・と羽音を出す。

● イボバッタ



丈の低い草地や裸地にいてよく飛ぶ。後あしの黒い紋が目立つ。

● トノサマバッタ



草地や河川敷で見られ、ハタハタ・と羽音をたててよく飛ぶ。

● クルマバッタモドキ



草地や河川敷で見られ、飛ぶと後ばねに曲がった黒い線が見える。

● ヒナバッタ



丈の低い草地に生息し、オスは後あしと翅をこすって音を出す。

● コバネイナゴ



水田の畦や草地で見られ、佃煮は日本の食文化として有名。

● ツチイナゴ



水田の畦や湿地の草地で見られ、目の下と背中中の白い線が特徴。

● コカマキリ



丈の低い草地で見られ、オスは全身が茶色、メスは白っぽい茶色。

● ハラヒロカマキリ



林縁の草地や林内に生息する。成虫は翅の中央横に白紋がある。

● オオカマキリ



丈の高い草地や林縁で見られる。胸や翅は茶色や緑のものがいる。

● ヤマトゴキブリ



林内で樹液などに集まっている。家にいるクロゴキブリとは別の種。

●アオバハゴロモ



林縁で見られ様々な植物の茎から汁を吸う。8月頃新成虫になる。

●アミガサハゴロモ



林縁の下草やカシ類の葉上で見られ、脅かすと飛び跳ねる。

●ツクツクボウシ



8月頃から現れ10月頃まで見られる細い枝に止まっていることが多い。

●アブラゼミ



7月の下旬から現れる、翅は全体に茶色いセミ。

●ミンミンゼミ



アブラゼミより少し後に現れる、翅の透き通ったセミ。

●アメンボ



明るく開放的な水域に生息し、水に落ちた昆虫などから体液を吸う。

●ツマグロオオヨコバイ



林内や林縁のいろいろな植物に止まっている。よく飛ぶ。

●オオヨコバイ



草地に生息し、いろいろな草本の茎から汁をすって育つ。数も多い。

●ヤナギウンカ



湿地で見られ、ヤナギやハンノキの枝や葉、幹などで見られる。

●ヤナギグンバイ



成虫、幼虫ともヤナギ類の葉で見られ、晩秋にケヤキの樹皮下で越冬。

●ツチカメムシ



地表性で地面を歩き、小昆虫などから体液を吸っている。

●マルカメムシ



とくにクズに集まり、つる先の新芽の部分に集団でいる。

●クサギカメムシ



ミズキなどいろいろな広葉樹にいる。
越冬のためよく家に入ってくる。

●アカスジキンカメムシ



林内にいてミズキ、コナラなどいろいろな広葉樹の葉や幹で見られる。

●シロヘリクチフトカメムシ



草地に生息し、ガの幼虫などから体液を吸う。

●チャバネアオカメムシ



林内で見られ、頭から背中の中
央は緑色で、翅は茶色い。

●ハサミツノカメムシ



林内で見られ、胸の横の角は赤
い。オスは腹部の先に鋏を持つ。

●セアカツノカメムシ



林内で見られ、胸の横の角は赤く
ない。背中には赤い部分がある。

●エサキモンキツノカメムシ



ミズキなどに集まる。胸や足、背
中のハート型の紋が黄色。

●ツマキヘリカメムシ



イ外リやイチゴ類に集団であつまり、
茎から汁を吸う。

●オオツマキヘリカメムシ



アザミ、イ外リ、イチゴ類の茎から集
団で、汁を吸う。

●ヨコヅナサシガメ



神社や公園でも見られ、サクラやエ
キの幹で昆虫やクモを食べる。○

●ホシハラヒロヘリカメムシ



クズやフジなどで見られ、茎から汁
を吸う。よく飛び回る。

●ホオズキカメムシ



ナス、トマト、アサガオ類などいろいろ
な植物から汁を吸う。野菜の害虫。

●ホソハリカメムシ



夏はイヌビエやヒシバなどから汁を吸い。草の根際で越冬する。

●ホソヘリカメムシ



マメ科やイネ科の害虫として有名。幼虫は集合してアリの見える。

●クモヘリカメムシ



イヌビエ、ヒシバ、エノコログサなどから汁を吸う。夏の終わり～秋に多い。

●ヒゲナガカメムシ



草地で見られ、イヌビエ、ヒシバ、エノコログサなどの花穂から汁を吸う。

●コバネナガカメムシ



湿地で見られ、モコモやヨシなどの茎に群がって汁を吸う。

●ウスバカゲロウ



林内に生息し、灯りに集まる。幼虫はすり鉢状の巣でアリの食べる。

●コアシナガバチ



春から現れいろいろな花に集まる。巣は小さくて反り返っている。

●オオスズメバチ



日本最大のハチ。樹液などに集まり、巣はとても大きくなる。

●セイヨウミツバチ



ヨーロッパから養蜂のために持ち込まれたミツバチの野生種。

●ベッコウバエ



林内に生息し、木の幹や樹液で見られる。ベッコウ甲色の大きなハエ。

●ナミハナアブ



春から秋までいろいろな花で見られる、幼虫は水生のウジ虫。

●アシトハナアブ



春から10月ごろまで見られ、花に集まる、幼虫は水生のウジ虫。

●トウキョウヒメハンミョウ



明るい裸地や土が向きだしになった林内の歩道などで見られる。

●アオオサムシ



林内や林の周辺で、主に夜に見られる。幼虫はミズを食べる。

●セアカヒラタゴミムシ



乾燥した草地や荒れ地に見られ、上翅中央や胸が赤いものもある。

●オオヒラタシデムシ



林内で地表を歩き回り、昆虫やミズの死骸を探して食べる。

●アカヒロウドコガネ



春から草地で見られ幼虫は土中で草の根を食べる。成虫で越冬。

●セマダラコガネ



草地や林縁で見られる。体は薄茶と茶色のまだらから黒までいる。

●コアオハナムグリ



林や草地でよく飛び、蜜を求めていろいろな花に集まる。

●カナブン



成虫は樹液に集まる。幼虫は朽ちた木の中で生活しこれを食べる。

●クロカナブン



成虫は樹液に集まる。幼虫は朽ちた木の中で生活しこれを食べる。

●シロテンハナムグリ



成虫は樹液に集まる。幼虫は朽ちた木の中で生活しこれを食べる。

●カブトムシ



成虫は樹液に集まる。幼虫は朽ちた木や腐葉土を食べる。

●マメコガネ



ヤブガラシやイタドリなどいろいろ葉を食べ。集団でいることもある。

●ノコギリクワガタ



成虫は7月頃から現れ、クヌギ・コナラ・ヤナギなどの樹液に集まる。

●コクワガタ



成虫は5月頃から10月頃まで見られ樹液に集まる。成虫で越冬する。

●ヨツボシケシキスイ



カナブンやクワガタに混じって、クヌギ・コナラなどの樹液に集まる。

●サビキコリ



成虫は6月頃から草地や林内で見られ、幼虫は土中にいて肉食。

●ムナビロサビキコリ



成虫は6月頃から草地や林内で見られ、幼虫は土中にいて肉食。

●ナミテントウ



草地やヤナギの葉につくアブラムシを食べる。上翅の模様は様々。

●トホシテントウ



オレンジ色の上翅に大きな黒い紋が10個あるのが特徴。

●ナナホシテントウ



赤い上翅に大きな黒い紋が7個あるのが特徴。

●ヒメカメノコテントウ



オレンジ色の上翅に黒い模様があるものからほとんど黒までいる。

●カメノコテントウ



上翅は薄い赤の地に黒い亀の甲羅のような模様があるのが特徴。

●ヒメアカボシテントウ



黒地の上翅に小さな赤い紋が2個あるのが特徴。

●キマワリ



体はまるく足が長い。林内で木の幹をよく歩きまわっている。

●ノコギリカミキリ



成虫は夏に現れ夕刻に林内を飛び回る。オスは翅と足で音を出す。

●アカハナカミキリ



成虫は夏に現れ、花に集まる。幼虫はマツ、ハンキ、クヌギの枯材食。

●ナガゴマフカミキリ



成虫は夏に現れ、日中は広葉樹の枯れ枝などでじっとしている。

●ゴマダラカミキリ



成虫は夏に現れ、幼虫はプラタナスやエゴノキなどの生木を食べる。

●イタドリハムシ



イタドリに集まり、幼虫成虫とも葉を食べる。上翅は黒とオレンジ色。

●ヨモギハムシ



成虫はヨモギ類に集まる。秋によく見られ、上翅は青と銅金色がある。

●クロウリハムシ



ウリ科植物の葉を食べる。体はオレンジ色で上翅は光沢のある紺色。

●ハンノキハムシ



幼虫成虫ともハンノキの葉を食べる。大群で葉を食べ尽くすこともある。

●コフキゾウムシ



成虫はクズの葉で見られ、葉を周辺から少しづつ食べ進んでいく。

●カツオゾウムシ



クヌギ類の葉を食べる。体は細く、新鮮な成虫はオレンジ色の粉を纏う。

●ハスジカツオゾウムシ



アザミやヨモギ類に集まる。新鮮な成虫は上翅にハスジ模様がある。

●オジロアシナガゾウムシ



クズの茎にとまっている。体は白と黒で、鳥の糞のように見える。

● アゲハチョウ



林内から住宅地まででよく見られる。幼虫はカタ好やミカン類を食べる。

● クロアゲハ



林内から住宅地まででよく見られる。幼虫はミカン類の葉を食べる。

● モンシロチョウ



明るく開けた草地や畑地にいて、幼虫はキャベツやクレソンを食べる。

● モンキチョウ



明るく開けた草地にいて、幼虫はシロツメクサを食べる。白い蝶もいる。

● ウラギンシジミ



林縁や林の近くで見られ、幼虫はクズノ葉を食べる。秋に多い。

● ゴイシシジミ



林内や林縁で見られ、幼虫はササにつくアブラムシから甘露をもらう。

● ヤマトシジミ



明るく開けた丈の低い草地で見られ、幼虫はカタハミ類の葉を食べる。

● ツバメシジミ



明るく開けた草地で見られ、幼虫はシロツメクサやコマツナギを食べる。

● ベニシジミ



明るく開けた湿った草地で見られ、幼虫はギシギシやスイバを食べる。

● ツマグロヒョウモン



南方系の種で、近年増えている。幼虫は庭のパンジーを食べる。

● キタテハ



明るい草地に見られ、幼虫はカナムグラを食べる。成虫で越冬する。

● ルリタテハ



林内や人家の庭などでも見られる。秋には熟した柿の実などに集まる。

● コムラサキ



ヤナギ林の近くにおいて幼虫もヤナギ食。翅は角度によって紫に見える。

● アカボシゴマダラ



中国からの外来種。エノキのある林において、樹液などに集まる。

● ヒメジャノメ



林縁で見られ、幼虫はチヂミザサやチガヤなどの葉を食べる。

● ヒカゲチョウ



林内に見られ、樹液などを吸う。幼虫はタケやササの葉を食べる。

● サトキマダラヒカゲ



林内に見られ、樹液などを吸う。幼虫はササやスキの葉を食べる。

● ダイミョウセセリ



成虫は林縁で見られ、翅を開いて止まる。幼虫はヤマノイモを食べる。

● イチモンジセセリ



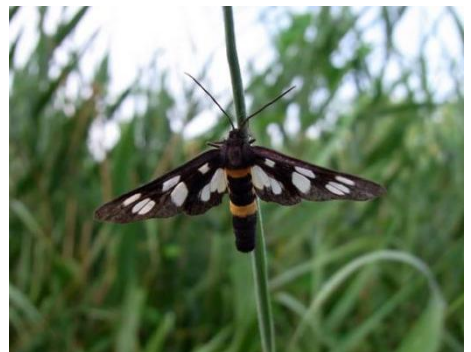
開けた草地で見られる。幼虫はエノコグサやヒシバの葉を食べる。

● ホタルガ



くらい林で、昼でもふわふわと飛んでいる。幼虫はヒサギを食べる。

● カノコガ



林縁や草地を昼でも飛んでいる。幼虫はタノポポ類の葉を食べる。

● イカリモンガ



林内や林縁で見られ、新成虫は8月頃現れる。幼虫はイデを食べる。

● シロヒトリ



草地に見られる。幼虫は太短く黒い毛虫でギンギシやスイバを食べる。

● オナガミズアオ



河川敷や湿地の林で見られ、幼虫はハンノキの葉を食べる。蛹越冬。

茂林寺沼湿原の昆虫暦

2月



ハンノキが
花をつける

1月



ミノムシ

12月



オオカマキリの卵鞘

3月



茂林寺沼橋付近の
ノウルシの群落

4月



菜の花が食草の
ツマキチョウ

5月



木道沿いにカキツバタが咲く

6月中旬



ハンノキが植樹の
ミドリシジミ

6月上旬



ヨシ原にノハナショウブも咲く

モモブトカミキリモドキ



エダヒゲナガハナノミ



7月上旬



希少種:オオモノサシトンボ

8月



茂林寺の林で
セミが羽化する



雑木林の
夜はにぎやか

11月



晩秋に木道で
日向ぼっこをするルリタテハ

10月



オギの穂が
広がる

9月



秋はバッタのシーズン